



第17回 文京区医師会学術集会 抄録

平成31年2月23日（土）

於 文京区医師会館 1Fホール

第I部 座長：三井 義久（医師会） 川田 真二郎（薬剤師会）

1. 「文京区認知症初期集中支援推進事業について」

清家クリニック 清家 正弘

認知症早期診断・早期対応として平成26年認知症初期集中支援推進事業が位置づけられ、平成27年認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）ではH30年度にはすべての市町村で実施することとなった。文京区では平成29年10月より認知症初期集中支援推進事業が実施され、認知症初期集中支援チーム員が対象者に対し訪問・チーム会議を最長6ヵ月にわたり継続的支援を行い相談先・医療の確保・生活機能の維持・介護負担感の緩和を目的に活動している。文京区認知症初期集中支援事業の実績は、H29.10月～H30.9月で事業対象者数平成29年度（10月～3月）12名、平成30年度（4月～9月）6名であった。対象者の認知症の診たては平成29年度11名、平成30年度5名であり、3月末・9月末の事業利用状況は平成29年度継続中4名、支援終了者8名、平成30年度継続中6名、支援終了者0名であった。事業終了時平均支援期間は平成29年度111.7日であり症例も含め報告する。

2. 「認知機能障害を伴う失語症について」

駒込かせだクリニック 言語聴覚士 關口 相和子

認知機能障害に失語症を合併した患者を4例経験した。診断名はアルツハイマー型認知症2例、原発性進行性失語（PPA）2例である。認知症もPPAも臨床症候群であり、背景疾患や出現する症状は様々である。今回の自験例では、全例言語障害が他の症状に比して早期に出現し、言語の症状が主訴であり、症状も進行していった。言語聴覚士として、認知機能だけでなく言語機能だけでなく、複合的な問題がある患者に対して、一般的な言語訓練や認知症に対する非薬物的療法を導入することに難しさを感じた。経過が長期に及ぶことや、症状の変化が起こると予想される中で、機能訓練の観点だけではなく、QOLの維持向上や環境調整の重要性を含め、どのような支援を行うことができるかについて検討した。

3. 「緊急性のある循環器疾患の見分け方」

むらい内科循環器クリニック 村井 綱児

もしも自分の外来に、胸痛や息苦しさなどの症状を持つ患者さんが来たら、。

このような経験はできるだけしたくないかもしれませんが、循環器内科クリニックでは毎日のように胸痛患者が来院します。

通院中の患者さんが緊急入院になったときの経験を通して、見逃してはいけない循環器疾患のポイント対処方法を検討します。

4. 「薬剤師会の地域貢献活動のご報告」

EDO ゆしま調剤薬局 野口 雄司

文京区薬剤師会では、地域住民の健康増進を図るため、年間を通してあらゆるイベントを実施しております。

1978年（昭和53年）から「薬祖神祭の日」である10月17日を初日とする1週間を「薬と健康の週間」として活動しており、文京区薬剤師会では毎年10月に本郷台中学校において、健康フェスティバルを開催し、地域住民の健康相談を行っております。

今年度は天気にも恵まれて、大勢の区民の方々に参加いただきました。骨密度測定や、肺機能検査、認知機能チェックなどのブースを設け、実際にそれらの結果をもとに、健康やお薬相談を実施しました。さらに今年はヘモグロビン量測定装置、姿勢によるフレイルチェック、体脂肪、体組成が測定できるInBodyが新たに加わり、健康への関心をより高めていただけたと思います。

今回は、健康フェスティバルの実施報告とともに、当日行いましたアンケート結果も併せてご紹介させていただきます。

5. 「煎じ薬の調整法と服薬指導」

おとわ薬局 永井 由香

漢方薬の本来の形である煎じ薬の作り方を紹介するとともに、漢方薬を安全に投薬するための服薬指導のポイントを説明する。

漢方薬は天然の動植物が原料であり正しい使い方をすれば副作用は少ないとされてきたが、現代の食生活の変化やエキス製剤の普及により、新たな問題点も報告されてきた。医療用漢方エキス製剤は膠飴や乳糖が含まれるものもあるが、その表示義務がない為それと認識されずに広く投薬され食物アレルギーを発症する可能性がある。また不用意な多剤併用が行われることもあり、甘草の過量による偽アルドステロン症や、小柴胡湯などによる間質性肺炎にも注意しなければならない。

適切な漢方薬の運用には、患者の背景と東洋医学ベースの証による処方への検証、処方中の構成生薬の特性や作用を知り最大限に効果が発揮されるような服用法や養生法の指導、アレルギーや副作用の情報提供を行うことが重要である。

第Ⅱ部

座長： 中山 知香（訪問看護ステーション） 太田 修司（歯科医師会）

6. 「 歯性上顎洞炎における歯内療法の有効性について 」

文京瀧田歯科医院 瀧田 稔弥

歯性上顎洞炎は副鼻腔炎の約 10%に存在し、根尖性歯周炎や重度歯周炎に代表される歯の根管及び表面の感染源が上顎道内に波及し、鼻汁、後鼻漏、鼻閉塞、悪臭、頬部痛等の臨床症状をきたす疾患である。しかしながら治療が容易に行える初期の歯性上顎洞炎の精査がなされないまま見過ごされる傾向があり、症状が進行し難知性になることが知られている。歯科治療側のアプローチとしては歯の保存が可能な場合は保存治療を行うが、保存不可能との診断で抜歯に至るケースも少なくない。しかし、適切な保存治療、抜歯を行なっても副鼻腔炎の症状が治まらないケースも多く報告されている。近年の耳鼻咽喉科学の臨床論文によると、自然孔から始まる洞口鼻道系の治療により上顎洞からの粘液排泄路の機能、すなわち自浄作用を正常な状態に保つことにより原因歯の治療の良好な結果が得られ、またこの機能が正常な状態ではない状態では抜歯や根尖性歯周炎の治療をしても歯性上顎洞炎は治癒しないと言われている。本症例は当院にて左側第一、第二大臼歯の根尖性歯周炎由来の歯性上顎洞炎の診断のもと、根管治療を行うと同時に耳鼻咽喉科の診療も同時に進め良好な経過をたどった症例を紹介させていただきます。

7. 「 文京区における 8020 運動・啓発活動の経緯 」

平井歯科医院 平井 基之

8. 「 文京区における 8020 達成者の追跡調査 」

白山きりん子ども矯正歯科 茂木 悦子

文京区歯科医師会は 1996 年、創設 50 周年記念事業のひとつとして 8020 達成者の表彰を行う傍ら、8020 達成者の全身および口腔調査を行い、結果として彼らが健康で自立した生活を送っていることを老年歯科医学会等の学会発表やホームページになどによる広報活動にて報告した。これは当時 8020 達成者の調査として草分け的研究で注目を浴びた。

そこで、8020 運動開始 30 年を経過し、文京区の調査もおおよそ約 20 年が経過したので、8020 達成者がその後、元気な生活を送っている、あるいは送っていたかどうかを知るため、追跡調査を行なった。

対象者は、文京区が 1996 年、2000 年、2005 年に行った 8020 達成者表彰式に参加された方々のうち、連絡先が判明している 158 名で、アンケートを郵送し、返送された回答を分析した。質問は、現在の住居、家族、体調、健康管理、身体能力、食生活、趣味や生きがい等である。逝去されている場合は、親族に逝去年齢、死亡原因、逝去場所、介護期間、介護場所、介護者について回答を依頼した。

回答者数は 158 名中 50 名で回収率は 41.6%であった。回答者のうち、存命者は 17 名（男性 5 名、女性 12 名）、最高齢者 102 歳 4 か月、平均年齢 93 歳 3 か月であった。本アンケートを分析、考察し、そのうちのひとつとして、もとより 8020 達成者は 80 歳代での健康さを示しているため、本結果のように介護期間が短いことは 8020 達成者の長い自立期間を示し、8020 運動の継続を後押しする数字であると考えられる。

9. 「難治性下腿潰瘍に対する弾性包帯処置の治療効果

～在宅看護にて介入した2症例の検討を通して～

小石川医師会訪問看護ステーション 小林 亜佐子

当ステーションで静脈性下腿潰瘍治療を数例経験した。

1例は20年前より左下腿潰瘍形成があり、入退院を繰り返した後、台東区・文京区の訪問看護介入。在宅にて一般的な治療継続するも改善せず長期間経過。

もう1例は、30年前から右下腿潰瘍形成があり、クリニック通院していたが悪化認め入院。退院後から訪問看護介入。

2例とも難治性となりQOLの低下を招いていた症例に対し、医師の指示や皮膚創傷認定看護師のサポートにて、弾性包帯による持続的圧迫処置を実施。良好な結果が得られたため報告する。

10. 「医療サービス向上勉強会 活動報告」

ナースステーション東京 文京支店 所長 名畑目 明美

目的:日本は2010年に超高齢化社会へと突入し、在宅医療の提供体制も医療関係者の連携に留まらず、さまざまな分野との連携が必要となっている。そこで、中島 榮一郎先生ご指導のもと、文京区の在宅医療サービスの向上を図るための勉強会が企画された。

方法:薬剤師会の島田 淳史先生、鈴木 礼先生を中心に勉強会が企画され、その後に懇親会も開催され、親睦を図りつつ、情報共有している。

結果:今年度は2回開催。1回目の開催では、けせら訪問看護ステーションの活動より、看護職交流会等が紹介され、実際にこの会のメンバーも看護職交流会に参加し、多職種との交流ができた。2回目の開催では、文京区薬剤師会の活動が紹介され、幅広い活動を知った。ぶんきょうお薬バックの使い方は、在宅の現場ではすぐに多職種が、推進して行けることを知った。

結論:今回この勉強会をとうして、在宅の現場で困った時、歯科医師、薬剤師の先生方にコンサルトやご指導頂けることが大きな成果である。また、今後も、地域で働くさまざまな分野の皆様と、この勉強会でともに学び、情報共有し、地域貢献に発展していければと考える。

平成31年2月23日 文京区医師会 学術集会 抄録

主催：文京区医師会

共催：文京区歯科医師会・文京区薬剤師会・訪問看護ステーション連絡会